

## ジャイプール国際大会を視察して

平成22年2月25日

井上 大智

(H21年度1次隊)

私は、2月21～24日の間、国際大会の視察にラジャスタン州ジャイプールに行きまして参りました。今回の視察の目的は、①新ルールの確認と、②他国のコーチとの情報交換の2点でした。これらの点に関して以下の通り報告を致します。

### 1. 新ルールの確認

今大会には国際柔道連盟から審判団が派遣されており、また参加国の国際審判ライセンスを持った先生方が審判をされたこともあって、試合の流れで不可解な点はありませんでした。デリーでの試合だと大抵の試合で不満が出て、選手が自分の力を発揮できずに終わることが多くあります。今回はそのようなことがなかったので、落ち着いて試合を見ることが出来ました。新ルールについても徹底した措置が行なわれており、選手に指導（ファール）が与えられる規準も確認することが出来ました。今後デリーでの試合を見るにあたり参考にしたいと思います。

一番印象に残っているのが、競っていた試合で相手を投げた選手が投げた後に派手なガッツポーズをし、それに対して審判団が勝った選手（ガッツポーズをした選手）に反則負けを与えたことです。柔道はスポーツではなく武道であり、精神修行が重んじられています。そういった精神が海外にもしっかり根付いているのを見て取れる場面でした。反則負けを与えた審判団を高く評価したいと思います。

### 2. 情報交換

各国のコーチたちとの情報交換に関して、今回参加したネパールチームと意見交換を持つことが出来ました。ネパールのコーチは派遣前の技術補完研修（講道館）で共に研修を受けた方で、その方と偶然再会することが出来たととても嬉しかったです。ネパールの選手は決して強いとは言えませんが、しっかりと組んで技をかけており、インド人選手のように力で相手をねじ伏せるような柔道はしていませんでした。ただ、他国の柔道に対して完全にパワーで負けていたので、多少の力は必要だと感じました。ネパールには講道館から先生がしばしば訪れているようで、また講道館で研修を受けた先生も学んだ技術・精神を自国の選手に受け継いでいてこれから成長が期待出来る国だと感じました。

今大会で松原隊員が指導していたマルビヤナガールの道場のゴギ先生ともお会いすることが出来ました。先生とインド人選手の弱い部分・改善すべき部分を話し合うことが出来て、とても良かったです。足技・寝技の強化が先生との共通意見で指導の再確認が出来ました。

### 3. 総括

この試合で目立って活躍していたのが、ウズベキスタン・キルギスタンの選手です。特に軽量級の試合は、国際試合らしいとても素晴らしい試合を見る事が出来ました。両国の選手は試合中の動きが非常に良く、さらに動きの中で技をかけていたのできれいな“一本”をよく取っていました。インド人選手は力が同等で技・動きの多彩な両国の選手に翻弄され、自分の柔道をさせてもらえなかったと

いう印象です。今第一線で戦っているインド人選手はベースがレスリングな為、今の新ルールに上手く対応できていません。この試合で、やはりジュニア期の指導の大切さを感じました。しっかりと組んで一本を取れる技を習得させること、武道精神(礼儀)の徹底指導をこれからの目標にしたいと思います。

また今大会は試合場を2つ用意していたにも関わらず、使用したのは1試合場だけであとの1試合場は何のために用意したのか不思議でなりませんでした。選手のためにも試合効率をもっと考えた運営を期待したいです。

以上